



金融審議会金融分科会第二部会信託に関するWG説明資料

「エンタテインメント・コンテンツと信託業」

2005年11月29日16:00～18:00

土井宏文

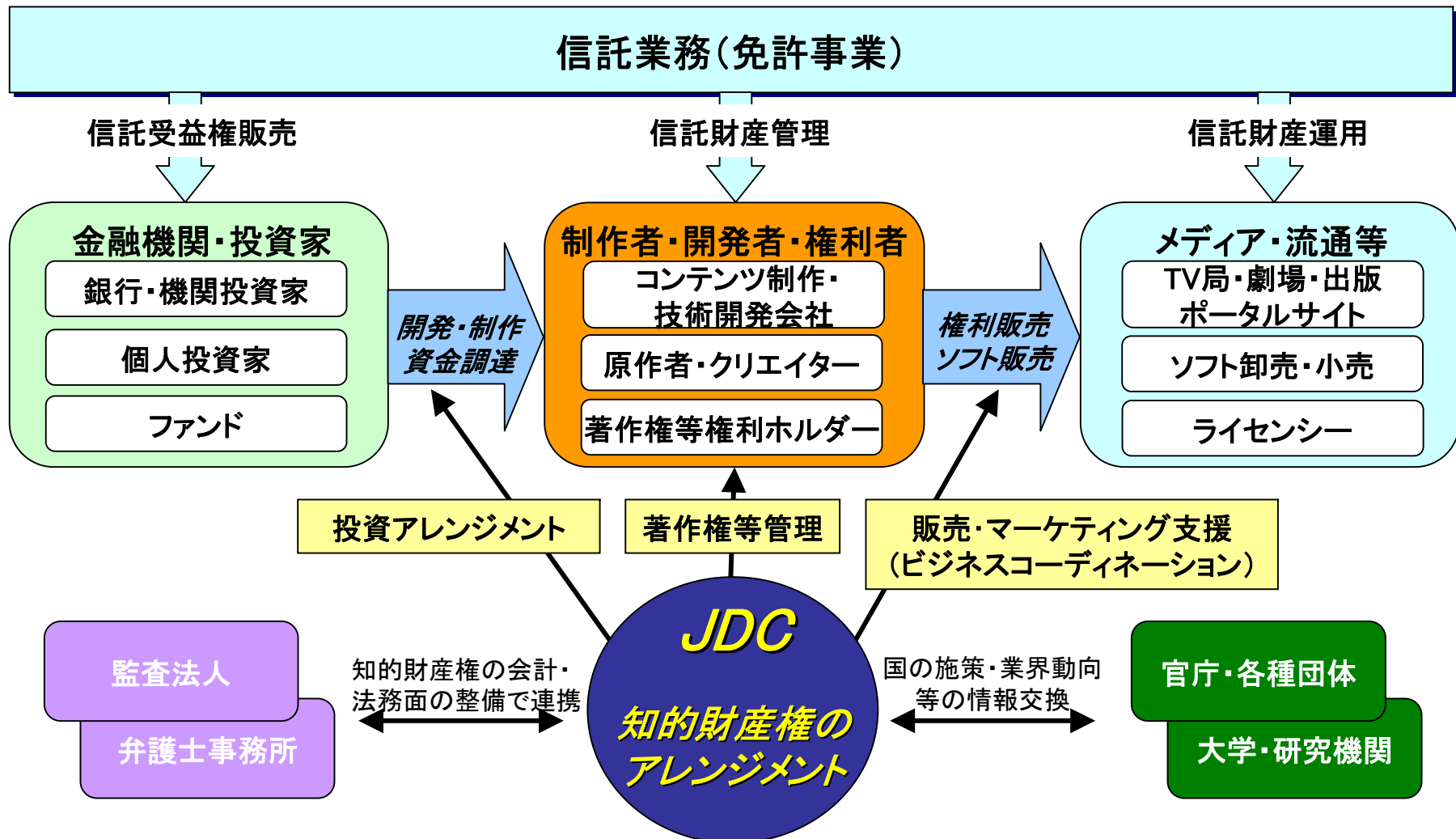
会社概要

会社名	ジャパン・デジタル・コンテンツ信託株式会社
所在地	東京都港区虎ノ門4丁目3番10号虎ノ門きよしビル
TEL	03-3434-5651
FAX	03-3434-5709
代表取締役	土井宏文
資本金	15億2,169万円
設立等	平成10年 3月設立 平成12年12月マザーズ上場(4815) 平成14年 1月著作権等管理事業者登録 平成16年 9月日本経済団体連合会入会 平成17年 5月信託免許取得 平成17年 6月信託営業開始(社名変更) 平成17年 6月信託協会入会
取引銀行	東京三菱銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、 りそな銀行、商工中金
主要株主	トヨタ自動車株式会社、日本ビクター株式会社、 株式会社NTTデータ、土井宏文
業務内容	信託業務を通じ、コンテンツ制作者等に以下のソリューションを提供 ■制作資金調達 ■流通コーディネート ■著作権の管理



JDC信託業務内容

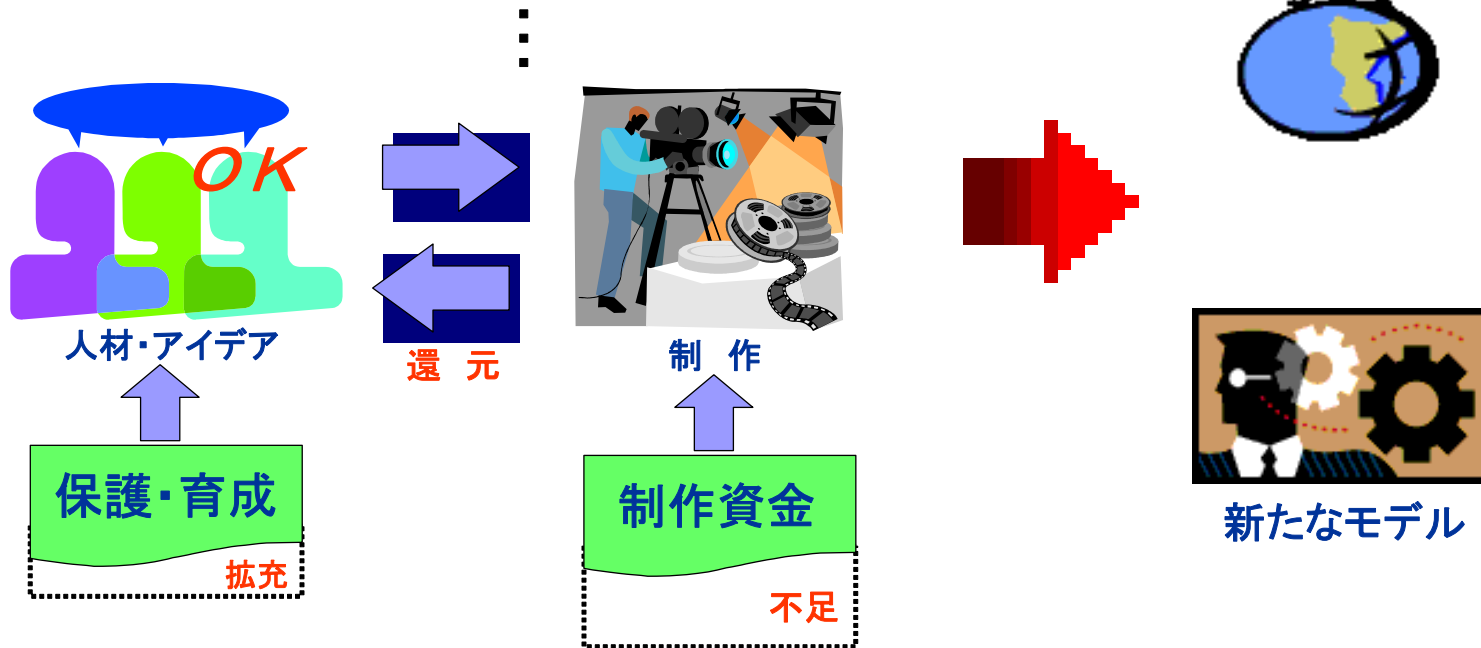
1. デジタルコンテンツ投資関連業務
2. ビジネスコーディネーション業務
3. 著作権等管理業務



「知的財産推進計画2005」(2005.6.15)

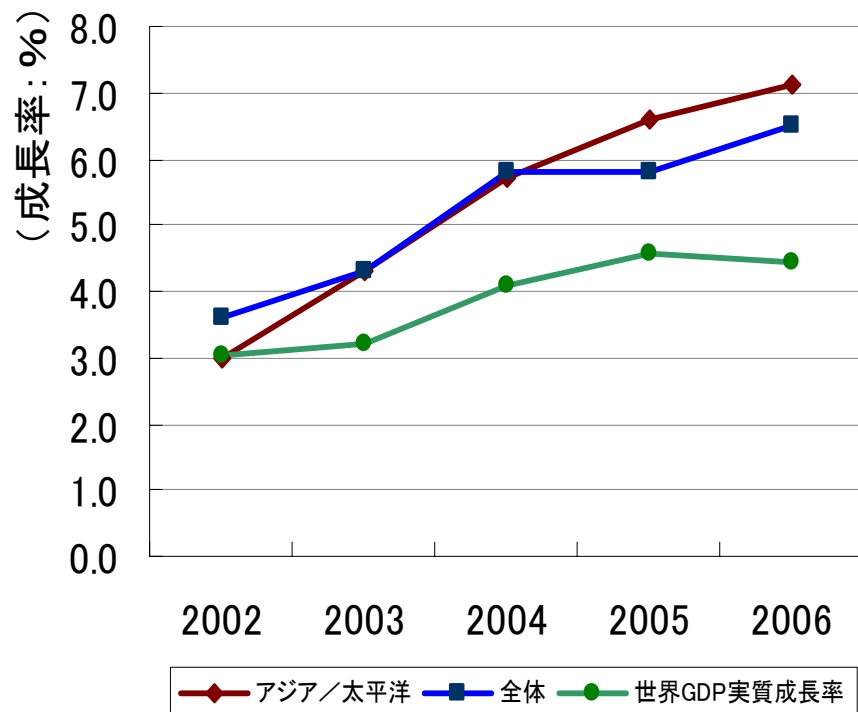
「第4章コンテンツをいかした文化創造国家への取組」より
コンテンツビジネス部分の見出し抜粋

1. 業界の近代化・合理化を支援する
2. コンテンツの制作・投資等を促進する
3. 人材育成を強化し、顕彰を充実する
4. コンテンツ流通大国に向けた改革を進める
5. 海外展開を拡大する



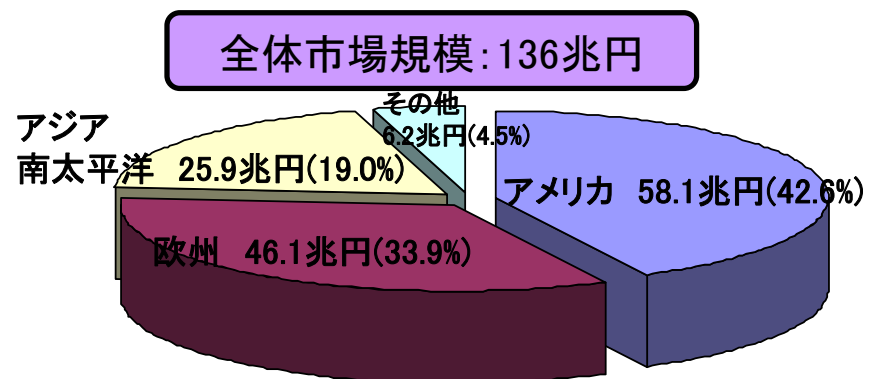
コンテンツビジネス市場規模①

コンテンツ産業の成長率予測

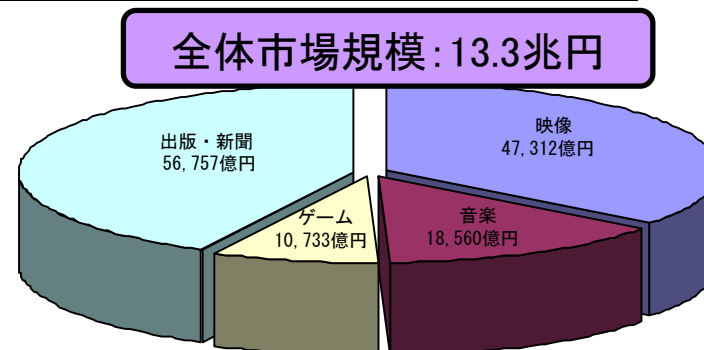


(PWC、IMF資料より作成)

世界のコンテンツ市場(2004年)



日本のコンテンツ市場(2004年)



((財)デジタルコンテンツ協会)

コンテンツビジネス市場規模②

日本のコンテンツ産業のGDP比率は、世界平均や米国に比べても低く、海外売上比率は米国の5分の1以下。

日本と米国、世界のコンテンツ市場のGDP比率(2000年)

	コンテンツ市場規模	GDP	GDP比率
日本	1,091億ドル※1	4.9兆ドル	2%
米国	5,068億ドル	9.8兆ドル	5%
世界	1兆ドル	30.9兆ドル	3%

(「Copyright Industry in The U.S. Economy」2002報告書、経済産業省資料、内閣府「海外経済データ」(平成15年7月)、浜野保樹「表現のビジネス」)

※1: 日本のコンテンツ規模は国内規模1,060億ドル(2000年)と海外売上規模31億ドル(2001年)の合算

日本と米国のコンテンツ市場の海外売上比率(2000年)

	コンテンツ市場規模	うち海外売上規模	海外売上比率
日本	1,091億ドル※1	31億ドル※2	3%
米国	5,068億ドル	855億ドル※3	17%

(「Copyright Industry in The U.S. Economy」2002報告書、経済産業省資料)

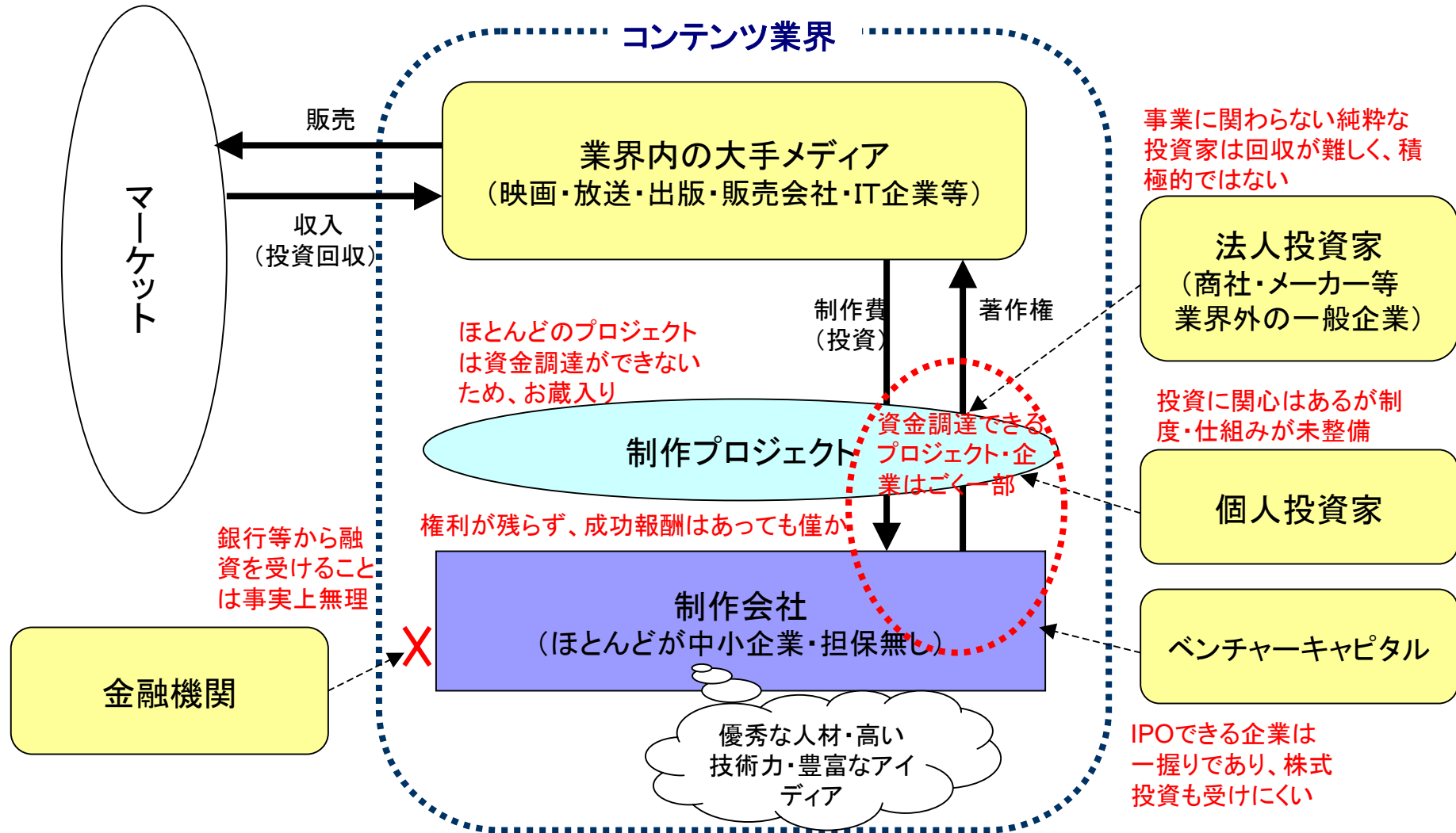
※1: 日本のコンテンツ規模は国内規模1,060億ドル(2000年)と海外売上規模31億ドル(2001年)の合算

※2: 2001年データ

※3: 外国販売および輸出分

コンテンツ業界内の資金供給環境

■ 業界内の資金のみで業界外からの資金供給はほとんど無い⇒慢性的な資金不足



日本のコンテンツビジネスの強みと弱み

プラス要因

- ・ 規模的な比較……現状13.3兆円の市場規模 ⇒消費基盤の存在
(但し、海外展開比率3%*)
- ・ 今後の成長力……1. 制作能力の高さ ⇒潜在的国際競争力
2. メディアの分散 ⇒収益機会の拡大

マイナス要因

- ・ ビジネス構造……未確定(日本型スタイル?) ⇒国際競争力を弱める
- ・ 投資家の不足……1. 制度未整備 ⇒成長力を弱める
2. リスク補完機能の不足 ⇒販売的にもマイナス

ビジネス構造に合わせた資金調達手法

* 海外のコンテンツビジネス市場規模

米 国 : 51.7兆円(海外展開比率17%)

欧 州 : 41 兆円(中東含む)

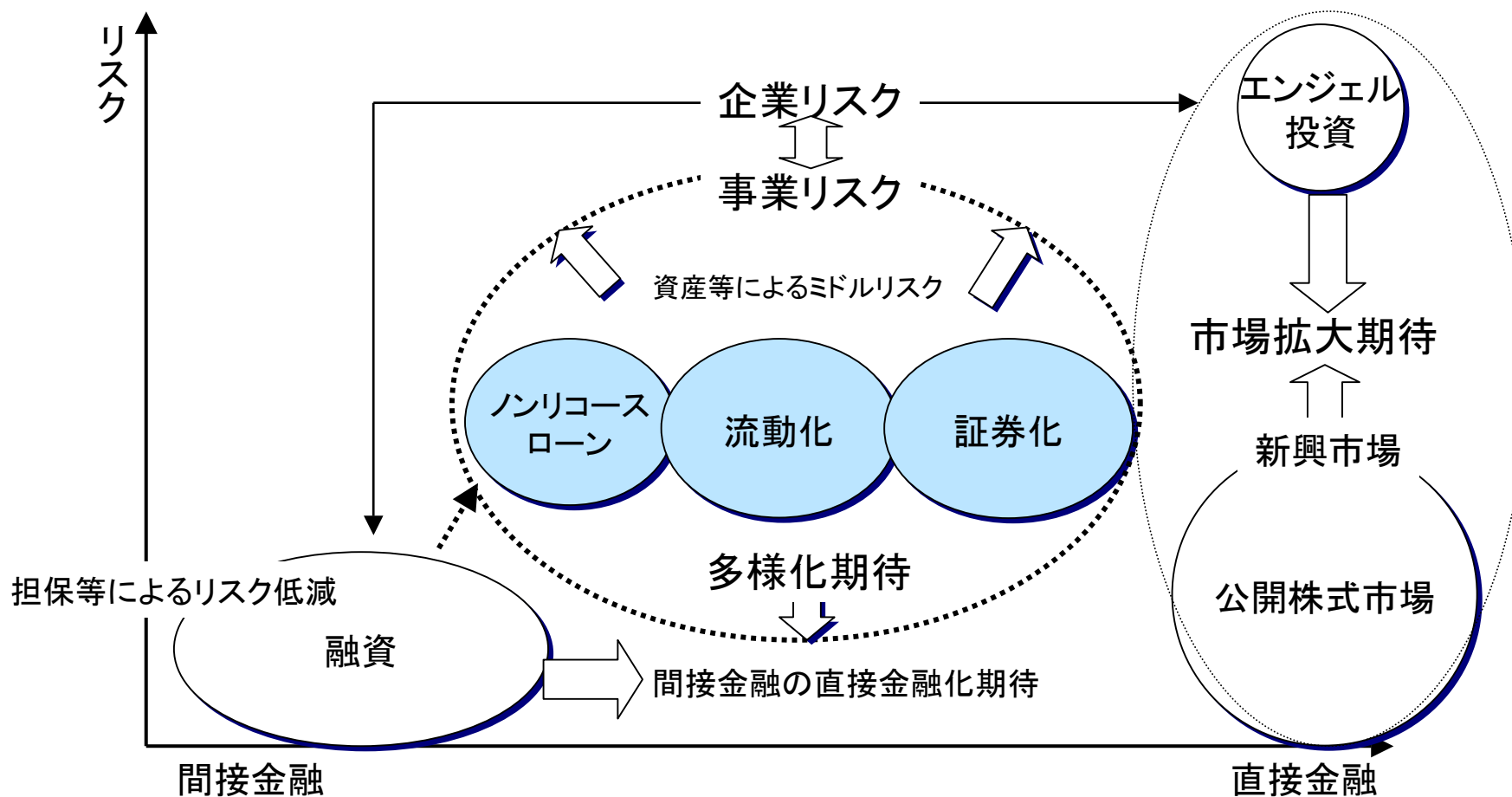
アジア : 24.7兆円(太平洋含む)

中 国 : 2.1兆円

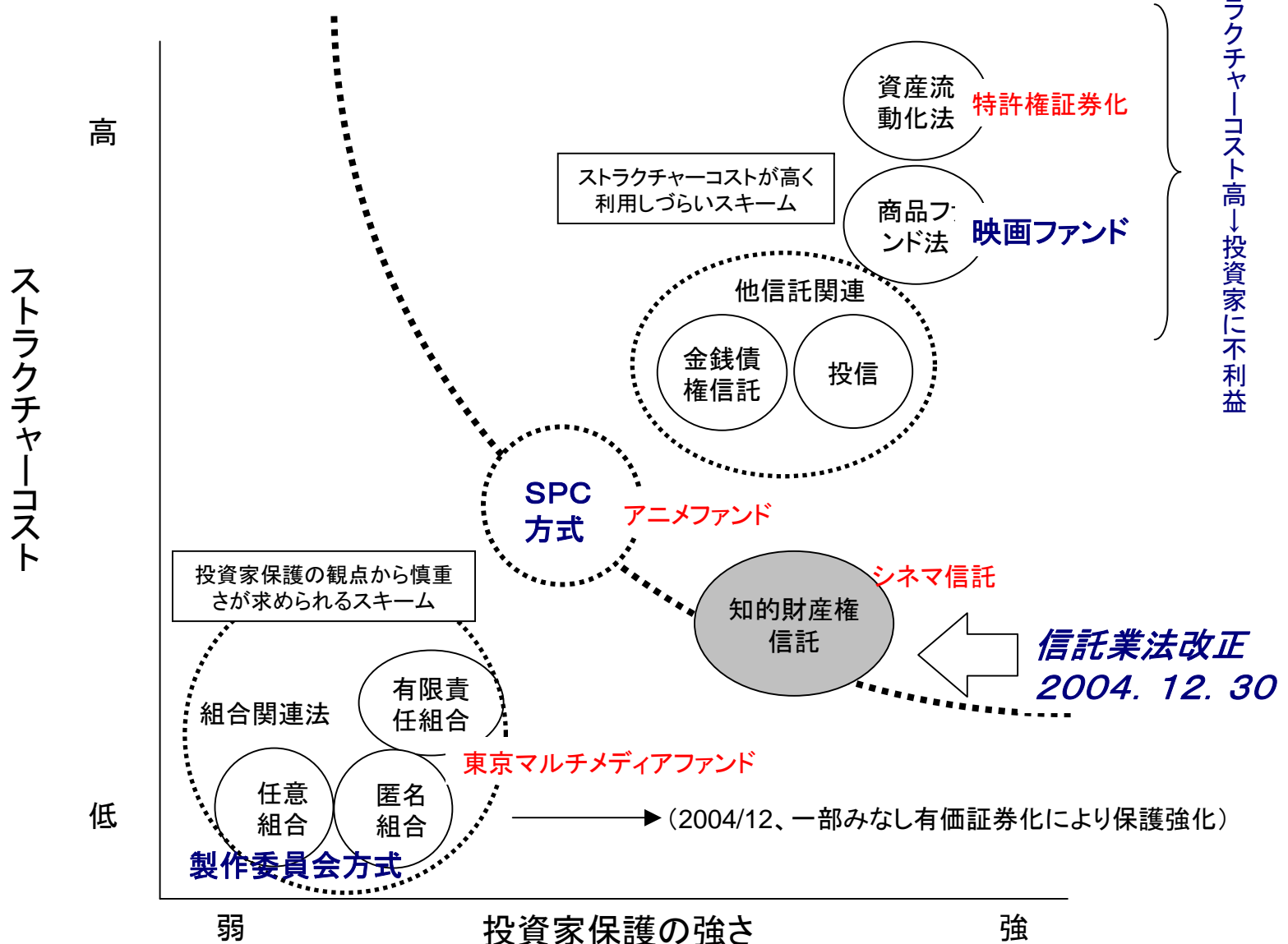
韓 国 : 1.5兆円 (デジタルコンテンツ協会資料より)

資金供給手法の多様化が必要 しかし、現実には？

制作会社の規模<制作費 ⇒ 企業リスク(コーポレートリスク)→事業リスク(プロジェクトリスク)



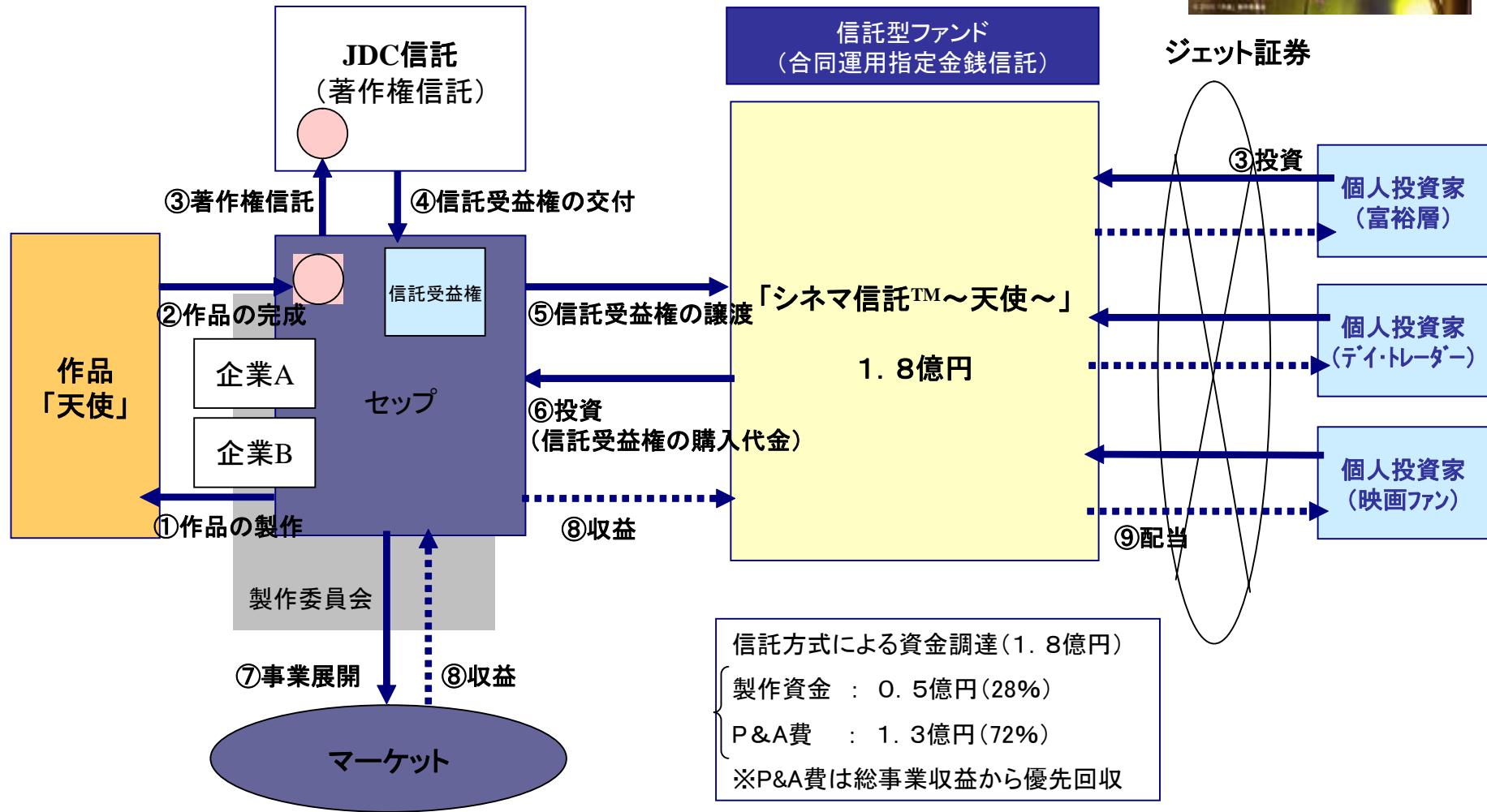
資金供給の際の視点 (赤字はJDC信託実施)



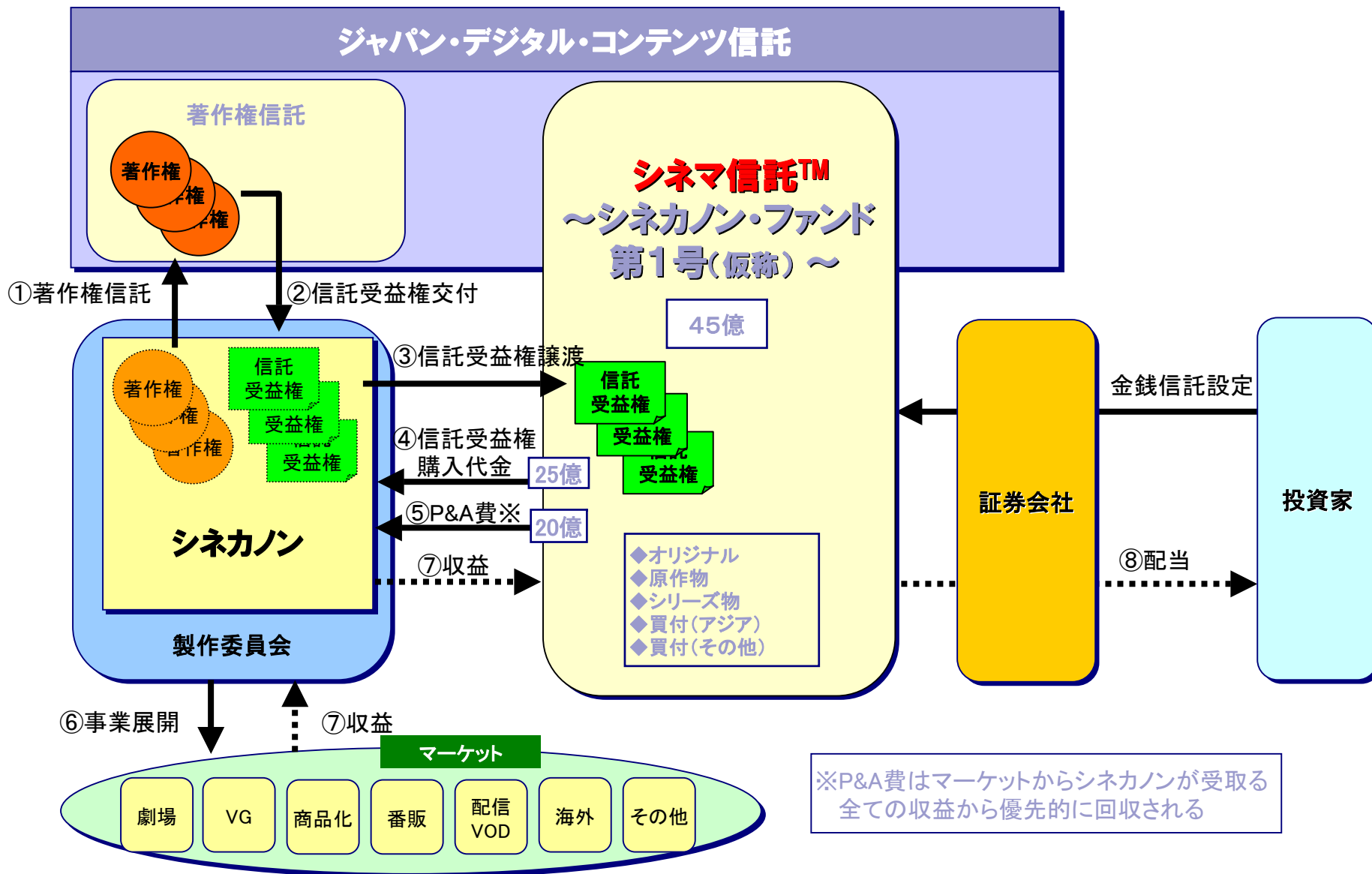
信託利用例(「シネマ信託TM~天使~」)



信託型ファンドで集められた金銭は、「天使」著作権の信託受益権等により運用

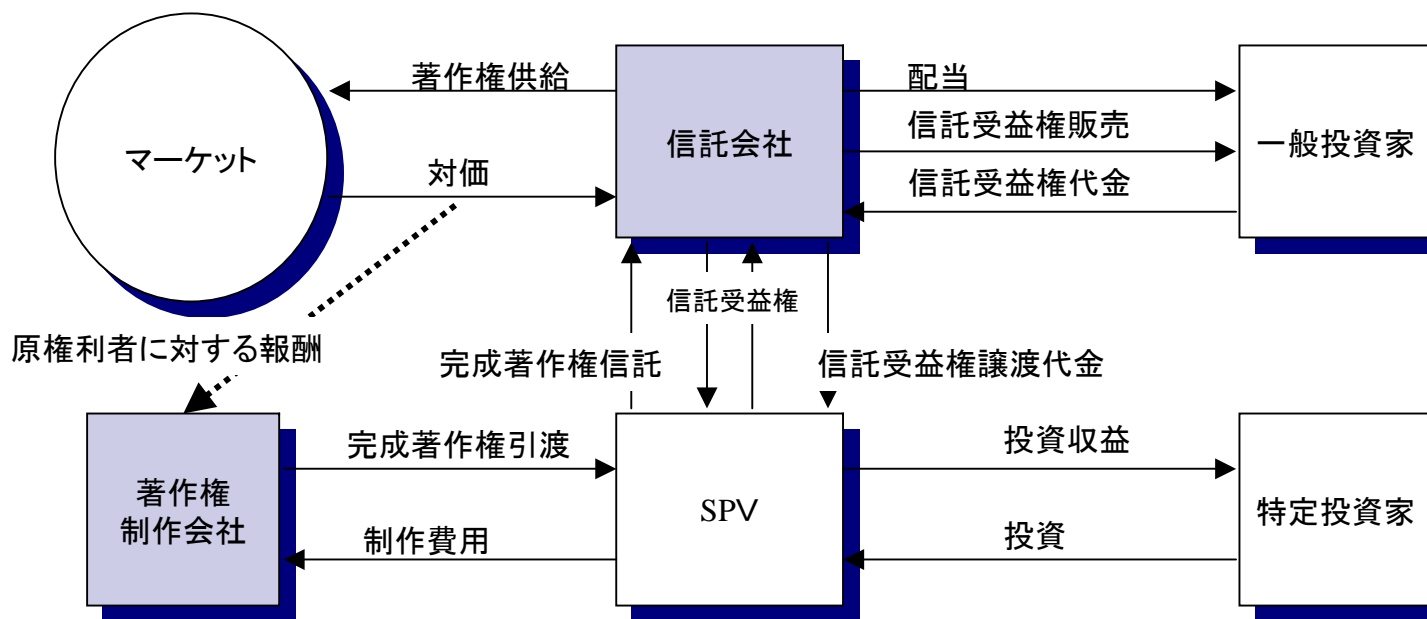


信託利用例(「シネマ信託™~シネカノン・ファンド第1号~」)



1. 制作段階からの資金供給方法

- ・二段階方式⇒SPVに対する商品ファンド法の規制緩和必要

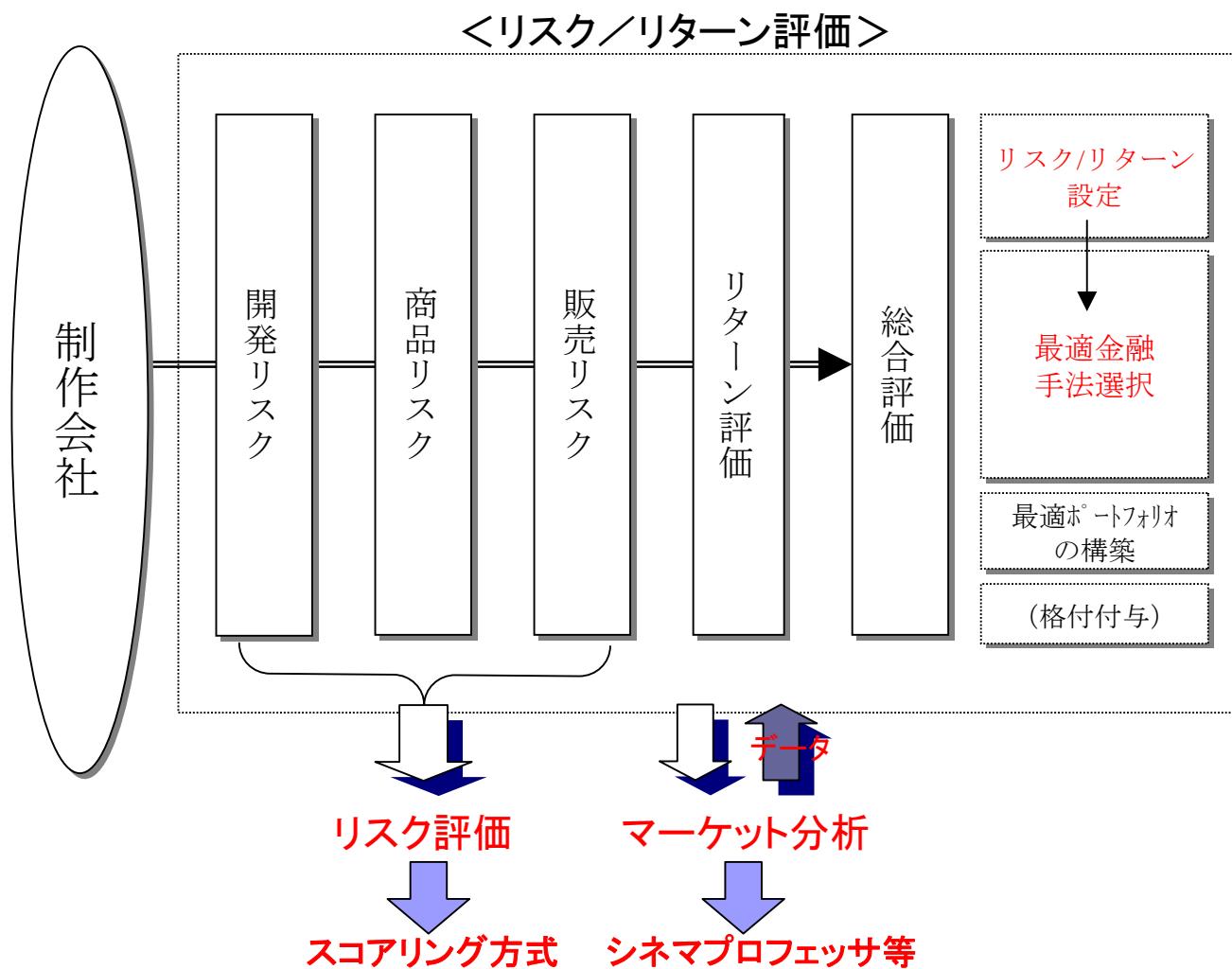


- ・完成保証制度の導入

2. その他の課題

- ・著作権及び信託登録制度の整備⇒効率化が望まれる。
(知的財産権信託と云うよりも著作権法の問題だが、ライセンシーの登録制度等の整備も必要)
- ・著作権に関しては、プロジェクト(事業)の信託は適している(各段階毎の登録不要)

JDC信託の評価システム



「亀は意外と速く泳ぐ」
©2005 WILCO Co. Ltd.



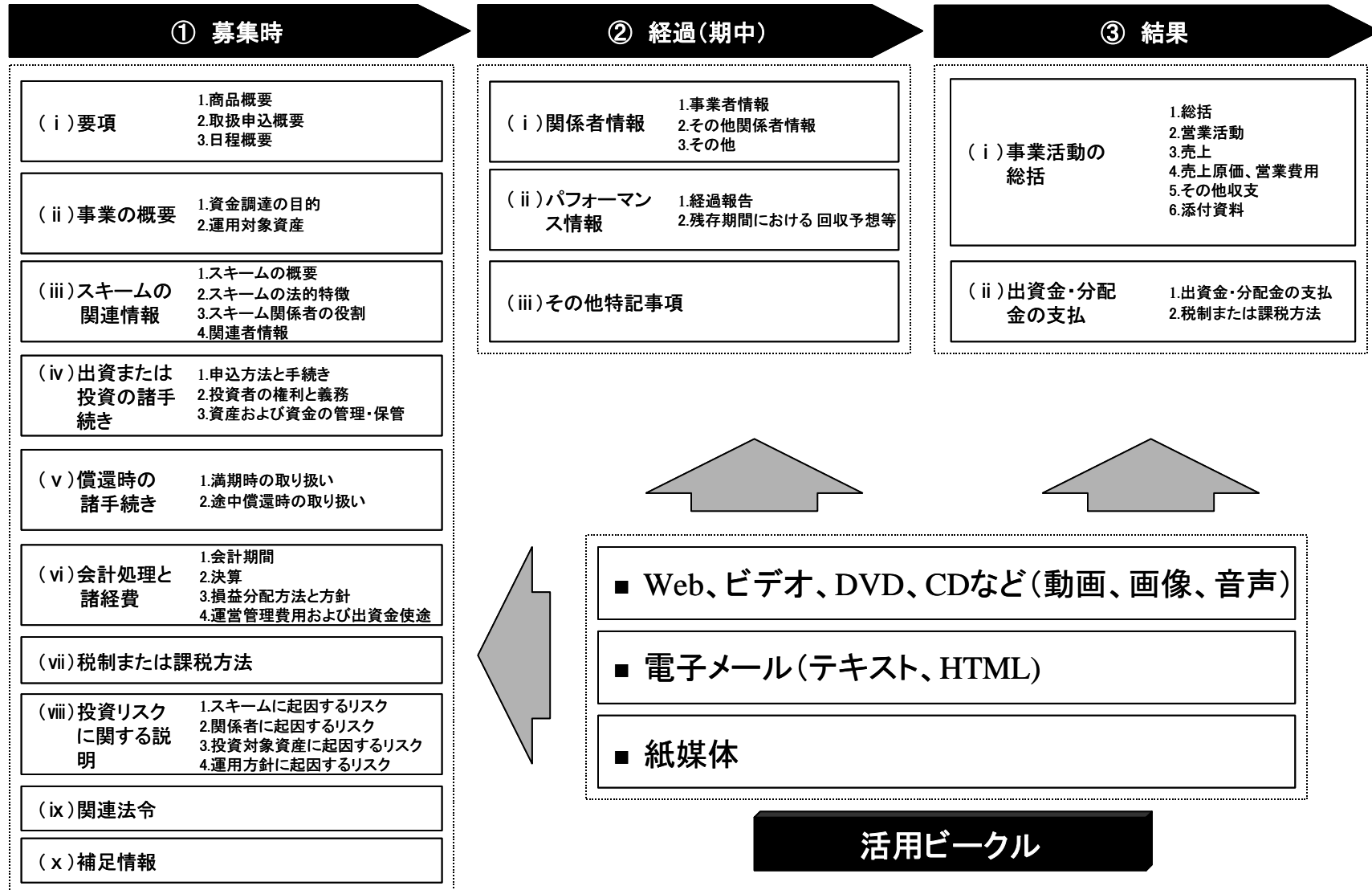
「タナカヒロシのすべて」
©2005 「タナカヒロシのすべて」

製作委員会

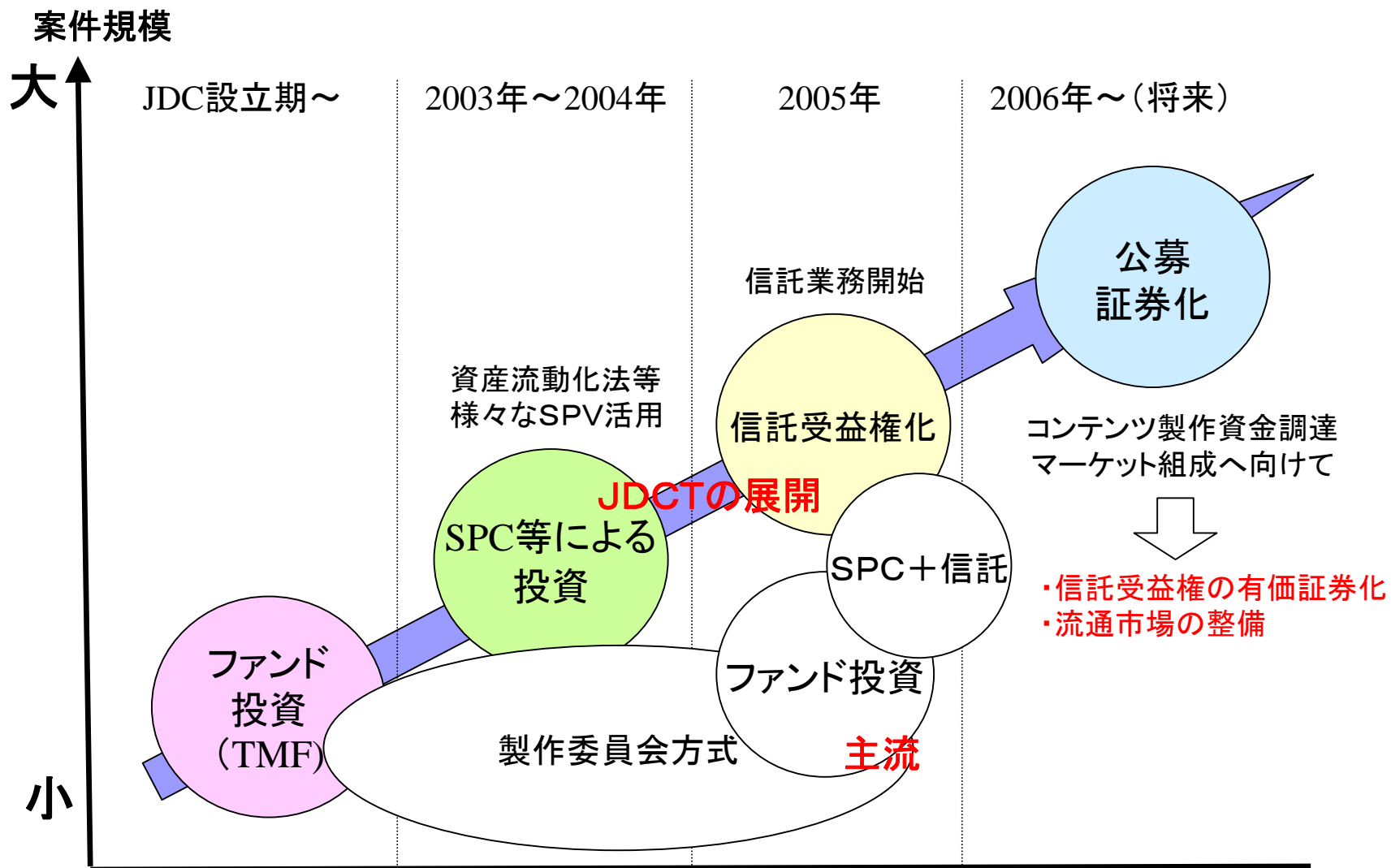


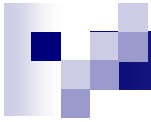
「白い犬のジェイク」
©YOH Shomei/ASU ONE ENTERTAINMENT・PONY CANYON

ディスクロージャーガイドライン全体概要



コンテンツ・ファイナンスの流れ





JDC TRUST

<http://www.jdc.jp/>